

令和4年度第1回サービス計画推進委員会の意見と取組状況

●総合評価

- ・第1期のうちにかなりの取組が前に進んでおり、努力の結果が出始めている。
- ・盤石な体制に移行しつつあり、いくつかのサービスはトップレベルに近づいている。
- ・サービス間で差ができています。ティーンズや多文化はこれから一定のレベルに上げていくことが重要。
- ・高知県は産業振興も奮闘していく中で、オーテピアは非常に重要な役割を果たす。
- ・オーテピア高知図書館によって県内市町村図書館の意識が変わっている。

総合的な意見

(R4.6.3令和4年度第1回サービス計画推進委員会より)

- ・業務のルーチン化や無駄をなくし、働き方改革、DX等を含めた幅広い戦略を練ることが必要。

- ・県立図書館では市町村支援の強化、市民図書館では本館と分館の連携が発展すればサービスが向上する。

- ・2期計画の目標をすでに達成しているものは指標の見直しが必要。

- ・2期計画の周知と、実施のための具体的な戦略が必要。

取組状況

- ボランティア活動を含めた図書館サポーター制度の構築を進めている。外部の力とともに図書館サービスの充実を図る。(資料5)
- 研修動画の充実により、職員の研修をオンデマンドで効率的に行うことができるようになった。(資料4-p.11)

- 市町村支援では、課題解決支援サービスの実施への協力に力を入れている。実際に、新たなサービスを開始する図書館や、展示を実施する図書館が見られるようになった。(資料4-p.11)
- 高知市全域サービスでは、本館と分館・分室相互の訪問の他に、グループウェアの活用や業務協議研修会等での情報共有を行うことで本館職員と分館・分室職員の繋がりが密になり、それぞれの利用者サービスの取組を全体に広げることができた。(資料4-p.12)

- 見直しが必要な指標について修正を行った。(資料3)

- 連携先や市町村訪問の際、サービス計画を見せながら連携内容を協議するなどしている。(資料4-p.11)
- 計画推進委員会をはじめとする図書館内外の意見を積極的に取り入れ、PDCAを回していくことで、戦略的なサービス計画の実施に努める。

各サービスについての意見

(R4. 6. 3令和4年度第1回サービス計画推進委員会より)

●ティーンズ・サービス

- ・ 情報リテラシーの学習機会提供は難しい。存在さえ知らない、知っていても関係ないと思っていることもたちに届けることが肝要。

●バリアフリーサービス

- ・ 視覚障害ばかりではなく聴覚や発達障害へのサービスが始まっているのは評価できる。多様な障害に対応することがこれからの課題。

●市町村立図書館等への支援

- ・ YouTubeの研修動画は 離れた図書館でも一定の知識が獲得できるように、充実させていただきたい。活用の方向性を聞きたい。
- ・ 県立から市町村図書館への助言は、リモートでの情報交換や会議も可能ではないか。
- ・ 県が中心となって県内の図書館政策を立案していく時期。

●高知市全域サービス

- ・ オープシアの利用も含めた各分館の戦略を。地域のニーズを収集して分館分室を通じて提供できれば、オープンシアにとってもよいパートナーとなる。
- ・ 高知市民に対するサービス水準を分析、比較をした上で、どの程度のレベルにあるか検討が必要。

●県立学校図書館との連携

- ・ 貸出しの絶対数はまだ伸びしろがある。学校が図書館の団体貸出を上手に使いれば飛躍的に伸びる。

取組状況

- 県立山田高等学校と連携し、授業の一環として生徒向けの図書館活用講座を実施した。情報の探し方や情報リテラシーに関する理解を深めることができた。(資料4-p. 13)
- 本の分類等についてより理解を深めることができるよう、小学校向けの図書館見学資料をアップデートした。(資料4-p. 7)

- 資料をわかりやすく読み伝える『やさしい読み上げサービス』の導入検討など、多様な障害に対応できるよう引き続きサービスの充実を図る。(資料4-p. 10)

- 研修動画を追加作成した。研修に参加できない職員でもオンデマンドで視聴できる学習ツールとなっている。ブログやメール、市町村訪問等で動画の視聴を繰り返し促していく。(資料4-p. 11)
- 現時点で、市町村図書館等において職員が常時使用可能な通信環境の整備は低調で、リモート会議の導入には至っていない。効果的、効率的なサポートの実施は課題であり、今後環境の改善が図られれば、ニーズに応じて検討したい。
- 県の図書館振興計画に基づき、生涯学習課と連携して市町村図書館等の業務をサポートしていく。

- 業務協議研修会での情報共有やグループウェアの活用を強化した。分館分室間の交流が増え、全体的な業務改善につながった。分館での成功事例を分室が取り入れたり、オープンシアの取組を分館・分室でも実施するなど、サービスの広がりが出てきた。(資料4-p. 12)
- レファレンス数の集計などサービス水準の分析を開始した。来館者が減少している分館・分室についても原因を分析する必要がある。(資料4-p. 12)

- 高知県教育振興基本計画を踏まえ、図書セットの内容を検討。グローバル教育等のセットを新たに追加した。(資料4-p. 13)
- 高校以外の学校 (県立夜間中学校、高等技術学校等) にもサービス説明を行い、利用カードを発行した。(資料4-p. 13)
- 研究指定校を中心に訪問を行い、各校の課題や特色に応じたブックリストや貸出しの提案を行う。(資料4-p. 13)